

欧州物流網の現状

6月17日 国土交通省は、このところの国際物流の混乱について、物流事業者や貿易関係者、荷主などの関係団体との情報交換会をオンラインで開催し、米国西海岸・欧州・中国上海の3地域について、物流の現状と今後の展望を話し合いました。本号では欧州各国の物流網の現状について、弊社欧州エージェントからの情報をお伝えします。

1. 日本⇄欧州の物流網の現状

- 各国の対ロシア経済制裁でロシア向け貨物が停止し、危険回避もあって海上輸送のキャパシティは減少しています。
- 航空輸送はシベリアを迂回するアラスカ、カザフスタン経由ルートに頼らざるを得ず、燃料増で貨物搭載量が減少、時間もかかり、日本の貨物航空会社は減便を強いられています。
- これらの状況は混乱解消が見通せず、日本における関係団体では厳しい事業環境が当面続くとの認識で一致しています。

2. ドイツの状況

- ドイツでは6月9日(木)に港湾労働者の賃上げを巡り実に44年ぶりのストライキがありましたが、影響は限定的でした。
- 一方で、新型コロナウイルス対策に伴う国際物流の混乱に起因し、港の混雑が直近9ヶ月ほど続いています。加えてウクライナ情勢の悪化で、ロシア・ウクライナ向けの多くのコンテナがドイツ各港で蔵置・滞留しており混雑に拍車をかけています。同コンテナは返送や迂回対応も困難ですが、コンテナ内貨物の処理方針は荷主に委ねられている状態です。
- 最も混雑している港はHamburgとBremerhavenで、それぞれの沖待ち時間はHamburg 10日・Bremerhaven 7日です。BremenとWilhelmshavenは(その地理的な不便さ故に)取扱うコンテナ数が比較的少なく、今のところ余裕があります。Hapag Lloyd等の運送人は、幾つかの物流で仕向地をHamburgからWilhelmshavenへ変更することを決定し、更なる遅延を避けるような動き・対策がみられています。
- 港でのコンテナ引取にも時間を要している様で、Hamburgでは、トラックがコンテナ受取に長蛇の列をなし6~8時間の渋滞が発生しています。
- ドイツの弊社エージェントによれば、港の混雑は最低でも今年いっぱいには続く可能性が高いとのこと。

3. ベルギーの状況

- 既にZeebrugge港手前には、多数の船が停泊・滞留していることが確認できている他、各港で混雑が見られます。
- その中で、ドイツ各港に続き、Antwerpにて6月20日(月)にストライキが実行された模様です。

4. オランダの状況

- Rotterdam港では著しい遅延や混雑は見受けられず、同港の平均沖待ち時間は2日ほどです。一方で、混雑した他港からの切り替え等で、今後貨物取扱量が増加する可能性が高く、今後の動向を注視しておく必要があると言えます。

上記情報につきましては、あくまで現時点での状況をご報告するものです。最新情報を常にご確認頂きたく、どうぞよろしくお願い申し上げます。



【参考ウェブサイト】LOGISTICS TODAY: (<https://www.logi-today.com>)

本Topicsに関するお問い合わせ、ご意見、ご感想等ございましたら、弊社営業担当までお寄せください。編集にあたっては万全の注意を行っていますが、本Topics情報の正確性を保証するものではなく、これにより生じたいかなる損害に対して弊社は一切の責任を負わないものとします。



マリンピックスバックナンバー